



2017年3月期第1四半期決算 プレゼンテーション資料

2016年7月
大阪ガス株式会社

I. 17.3期第1四半期実績

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

17.3期第1四半期決算のポイント

■ 概況

売上高	LNG価格の下落に伴う、ガス販売単価の下落などにより、 前年比19.1%減収の2,763億円。
経常利益	スライド差益の減少により、ガス粗利益が減少したことなどにより、 前年比45.5%減益の403億円。 スライド差益は145億円(前年同期スライド差益415億円)。

■ ガス販売量

家庭用	ガス機器の高効率化による影響や、春先の気水温が高く推移したことなどにより、 前年比2.2%減少の501百万m³。
商・公・医療用	ガス機器の高効率化による影響や、お客さまの省エネルギー推進などにより、 前年比3.4%減少の291百万m³。
工業用	大規模な需要開発や、お客さま設備の稼働が増加したことなどにより、 前年比11.6%増加の1,091百万m³。

■ その他

新規事業拡大投資	海外エネルギー事業を中心に意思決定済案件への投資を実行。 第1四半期の投資実行額は 前年実績を116億円下回る129億円。
----------	-------------------------------------------------------------------------

17.3期第1四半期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,259	7,203	+55	+0.8%
	新設工事件数(千件)	22	24	-2	-9.9%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	28.0	28.9	-0.9	-3.0%
	家庭用	501	512	-11	-2.2%
	商・公・医療用	291	302	-10	-3.4%
	工業用	1,091	978	+114	+11.6%
	業務用計	1,383	1,280	+103	+8.1%
	他ガス事業者向け	115	110	+5	+4.2%
	(うち大口供給)	(1,207)	(1,098)	(+109)	(+9.9%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	1,999	1,902	+97	+5.1%
連結ガス販売量	2,009	1,913	+96	+5.0%	

17.3期第1四半期実績 |

連結：億円、()内は連単倍率

	A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B	A-B/B(%)	備考
売上高	(1.28) 2,763	(1.22) 3,415	-652	-19.1%	ガス販売単価の下落等
営業利益	(1.17) 384	(1.11) 723	-339	-46.9%	ガス粗利益の減少等
経常利益	(0.86) 403	(1.04) 741	-337	-45.5%	ガス粗利益の減少等
四半期純利益*	(0.74) 269	(1.00) 521	-252	-48.4%	

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

		A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B
スライド差損益	億円	145	415	-270
原油価格	\$/bbl	40.9	59.6	-18.7
為替レート	円/\$	108.0	121.4	-13.4

17.3期1Q原油価格実績は、6月上中旬値までの平均。

17.3期第1四半期実績 II

連結:億円	A. 17.3期 1Q末	16.3期 1Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	17,365	18,340	18,297	-931	流動資産の減少等
自己資本	8,967	9,227	9,066	-98	
有利子負債	5,527	5,915	5,671	-144	
在籍人員	21,137	21,634	20,844	+293	
自己資本比率	51.6%	50.3%	49.5%	+2.1	
D/E比率	0.62	0.64	0.63	-0.01	

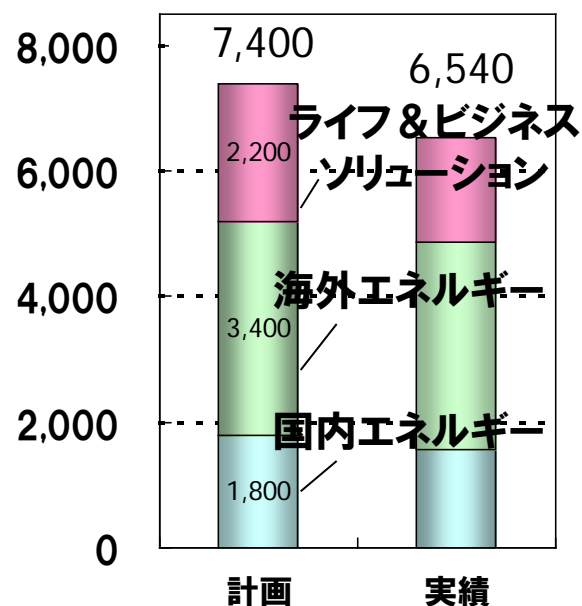
	A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B	備考
設備投資	154	219	-65	製造設備投資の減少等
減価償却費	206	209	-3	
フリーキャッシュフロー	88	814	-725	

II. 参考資料 (1)

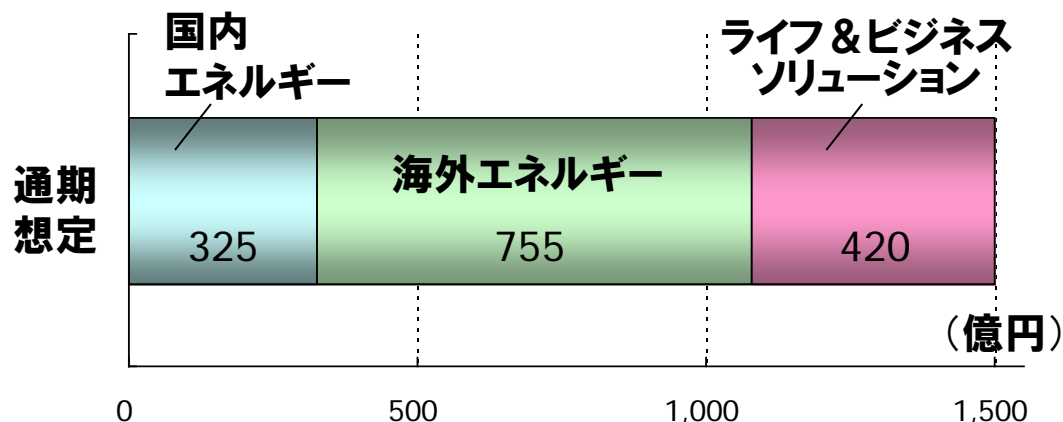
17.3期新規事業拡大投資実績

- 10.3期-17.3期の意思決定済金額は6,540億円(対計画88%)。
- 17.3期の投資実行額は129億円(対計画9%)。

10.3期-17.3期(8か年)
投資計画の進捗
(累計意思決定ベース)



17.3期の新規事業拡大投資



17.3期1Q実績：129億円

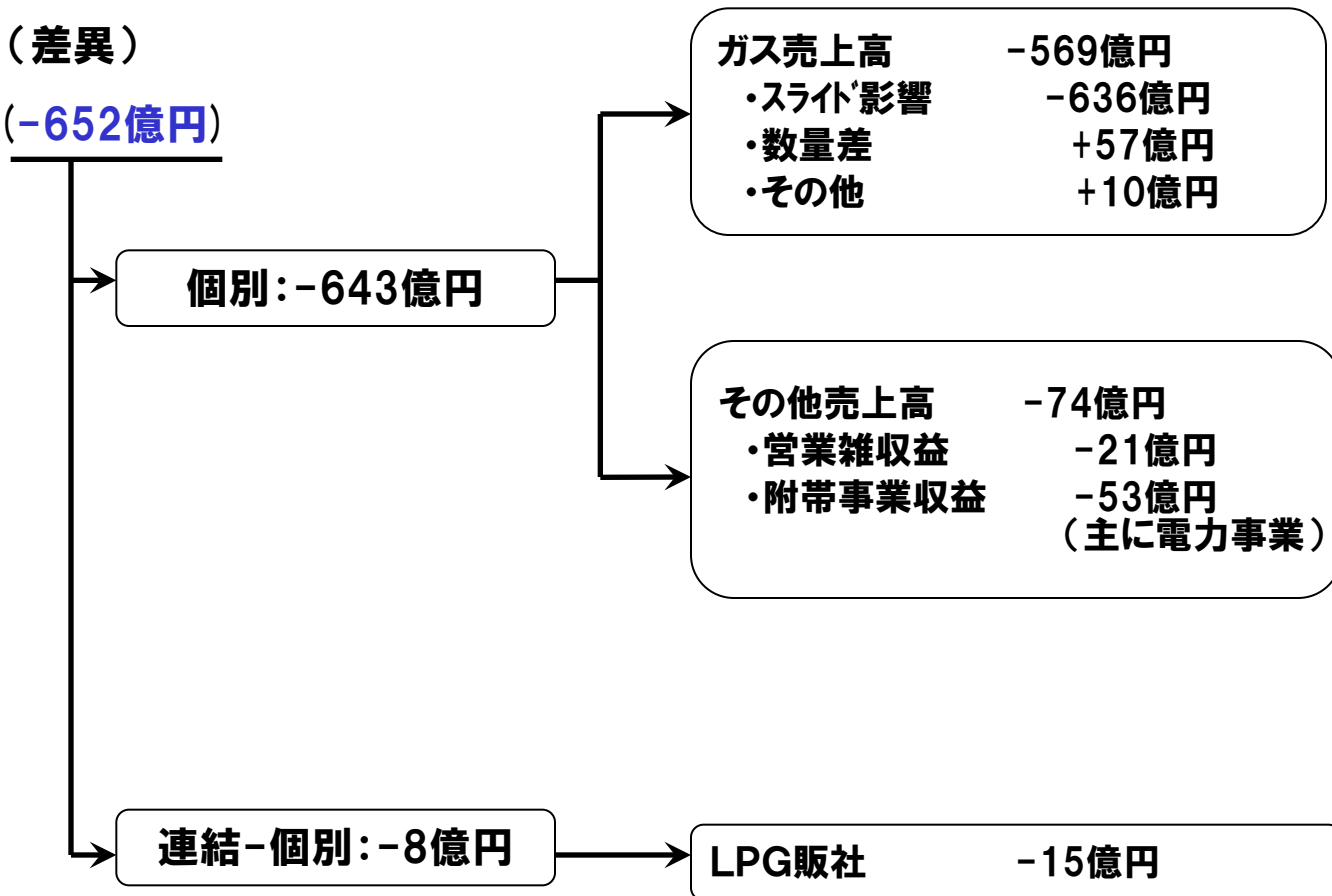
- ・ 国内エネルギー：27億円 (LPG事業, 発電所建設など)
- ・ 海外エネルギー：78億円 (上流案件, 発電所建設など)
- ・ ライフ&ビジネスソリューション：23億円 (都市開発事業など)

投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

17.3期第1四半期の売上高差異(対前期)

16.3期1Q → 17.3期1Q (差異)

3,415億円 2,763億円 (-652億円)

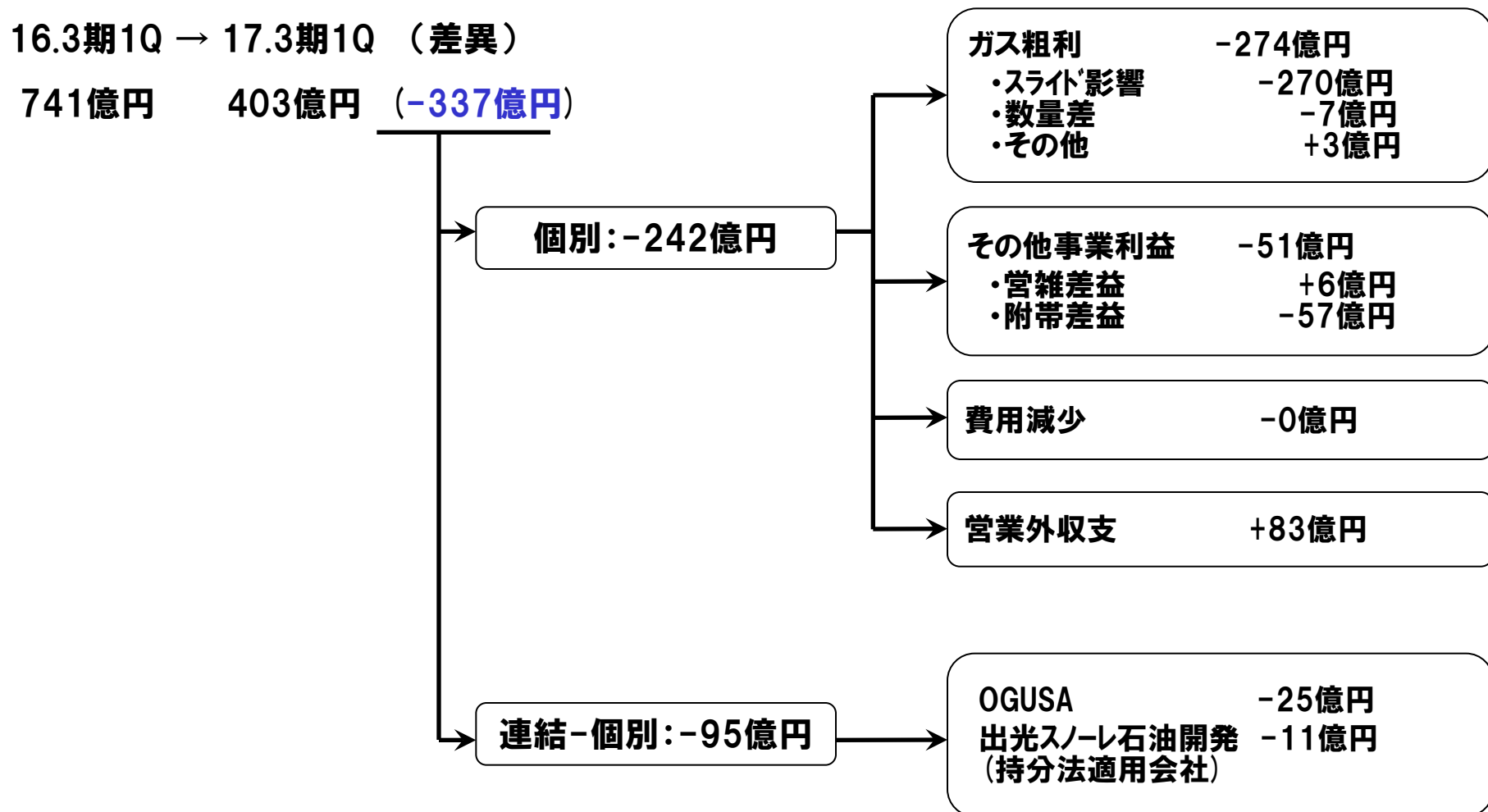


17.3期第1四半期の経常利益差異(対前期)

16.3期1Q → 17.3期1Q (差異)

741億円 403億円 (-337億円)

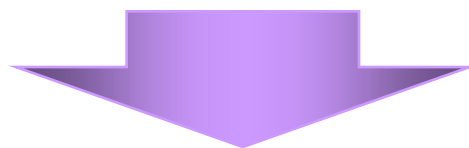
+-の符号は利益への影響を表す。



家庭用ガス販売

17.3期1Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.8%	
気水温影響等	-0.8%	平均気温20.4度(対前期+0.3度)
その他	-2.2%	ガス機器の高効率化等
合計	-2.2%	



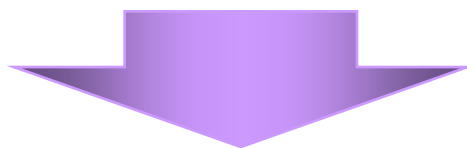
17.3期見通し

- 平年気温を前提とすることにより、主に冬期の需要が増加し、前年比+2.1%、44百万m³増の2,127百万m³を見込む。

商・公・医療用ガス販売

17.3期1Q実績

	対前期	備考
需要開発	+2.0%	空調需要を中心とした新規開拓
気水温影響等	-0.3%	
個別要因	-0.8%	特殊要因によるお客さま先での設備稼働の減少
その他	-4.3%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-3.4%	



17.3期見通し

- お客さま先の設備稼働の増加影響などを織り込み、前年比+3.9%、55百万m³増の1,464百万m³を見込む。

工業用ガス販売

17.3期1Q実績

	対前期	備考
需要開発	+12.9%	大規模な需要開発等
稼働増減等	+1.0%	お客さま設備の稼働増等
個別要因	-1.5%	特殊要因による減少
その他	-0.8%	
合計	+11.6%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	69	97.3%
金属	237	100.0%
ガラス	70	99.1%
化学	313	103.6%
食品	131	103.2%



17.3期見通し

- 新規需要開発やお客さま設備の稼働増加を織り込み、前年比+7.7%、314百万m³増の4,373百万m³を見込む。

17.3期第1四半期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	17.3期 1Q	16.3期 1Q	17.3期 1Q	16.3期 1Q	
ガス	1,968	2,559	325	591	売上:ガス販売単価減等 利益:スライド差益減少等
LPG・電力・ その他エネルギー	402	482	35	81	売上・利益: 主に電力事業で減少
海外エネルギー	30	44	-24	12	売上:OGUSA等で減少 利益:OGUSA, 出光スノーレ等で減少
ライフ&ビジネス ソリューション	492	477	35	33	売上:大阪ガス都市開発等で増加 利益:Jacobi社等で増加
消去又は全社	-131	-148	6	5	
連結	2,763	3,415	377	725	

(*)セグメント利益＝営業損益＋持分法投資損益

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第2四半期以降の経常利益は-12億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第2四半期以降の経常利益は-6億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利+1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間-5億円変動する可能性がある。

III. 参考資料 (2)－17.3期見通し

3月発表時の見通しから、変更ありません。

17.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 17.3期 見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,298	7,252	+46	+0.6%
	新設工事件数(千件)	109	109	-0	-0.4%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	29.7	29.3	+0.4	+1.5%
	家庭用	2,127	2,083	+44	+2.1%
	商・公・医療用	1,464	1,410	+55	+3.9%
	工業用	4,373	4,059	+314	+7.7%
	業務用計	5,837	5,469	+368	+6.7%
	他ガス事業者向け	483	469	+14	+3.0%
	(うち大口供給)	(4,991)	(4,647)	(+344)	(+7.4%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,447	8,021	+427	+5.3%
連結ガス販売量	8,480	8,052	+427	+5.3%	

17.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 17.3期 見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.32) 11,705	(1.27) 13,220	-1,515	-11.5%
営業利益	(1.80) 855	(1.31) 1,466	-611	-41.7%
経常利益	(1.36) 780	(1.19) 1,349	-569	-42.2%
当期純利益*	(1.16) 520	(1.01) 843	-323	-38.3%
SVA**	234	526	-291	-55.4%
スライド差損益 億円	124	817	-692	
原油価格 \$/bbl	42.5***	48.7	-6.2	
為替レート 円/\$	120.0	120.2	-0.2	

* 親会社株主に帰属する当期純利益

** SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

*** 原油価格の前提 1-2Q:40\$/bbl, 3-4Q:45\$/bbl

17.3期見通し II

連結:億円	A. 17.3末見通し	B. 16.3末実績	A-B
総資産	18,907	18,297	+609
自己資本	9,741	9,066	+674
有利子負債	5,698	5,671	+26
在籍人員(人)	21,232	20,844	+388
自己資本比率	51.5%	49.5%	+2.0
D/E比率	0.59	0.63	-0.04

	A. 17.3期見通し	B. 16.3期実績	A-B
設備投資	1,095	1,144	-48
減価償却費	866	867	-0
フリーキャッシュフロー	1,135	2,257	-1,122
ROA	2.8%	4.6%	-1.8
ROE	5.4%	9.4%	-4.0
EPS (円/株)	25.0	40.5	-15.5
BPS (円/株)	468.3	435.8	+32.4

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

17.3期セグメント別見通し

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	17.3期 見通し	16.3期 実績	17.3期 見通し	16.3期 実績	
ガス	7,961	9,485	455	957	売上:ガス販売単価の低下 利益:スライド差益の減少
LPG・電力・ その他エネルギー	1,908	2,064	135	288	売上・利益: 主に電力事業で減少
海外エネルギー	227	187	15	-2	売上:LNG船事業等で増加 利益:持分法適用会社で増加等
ライフ&ビジネス ソリューション	2,213	2,217	220	188	利益:大阪ガスケミカルG等で増加
消去又は全社	-604	-733	21	-9	
連結	11,705	13,220	846	1,421	

(*)セグメント利益=営業損益+持分法投資損益

以上